

常新新聞

刊夕日八十月九

定部金貳圓 廣五號十二 休日曜大祭 福島縣石城郡平町長橋町三五
 一ヶ月計錢 告字詰二行 刊日祝日祭 發行所 常警毎日新聞社
 郵税五厘 料五十錢 日祝日祭 電話六三〇番

日刊 發行兼編輯人 川崎文治 本社下同番地（電話六三〇番）
 印刷所 常警毎日印刷所

政治漫談 (六)

衆議院議員 岡田忠彦

想ひ起す歐洲大戰の最中この巨大なる空中の猛獸は幾度か倫敦の空を襲ひ、幾百萬の倫敦市民、沈着なる英國民も流石に膽を寒からしめた。戦ひ終つてツエツペリン及び其の格納庫は戦利品として戦勝國に奪はれることとなり、ツエツペリンを米國に届けたのが實にエツケナー博士其人であつた。此時苦心慘愴此の大飛行船に成功したッ伯は既に不歸

の客となつて居り獨人は我子を失つたやうに悲嘆した。それで獨逸は戦敗困苦の中から巨額の寄附を募集しそのジャーマン民族の血が凝つて今日のツエツペリンが成つたのである。即ち獨逸人は戦敗國たるに拘らず戰爭終局の其の日より其の氣宇既に天下を呑んでゐる。平和の時は平和の使節であるが、戦の時は空中の猛獸である。何れにしてもツエツペリンのある所、天下を併呑する獨逸人の意氣が此に現はれてゐる。英國は戰爭の結果既に老國になつた。馬脚を露はしたと稱へられてゐる。けれども今度

全遠藤のパン

商標 平野製菓

喫茶部開設

常警文藝

過ぎし民謡の夕邊に就て

(終) 正木朝夫

これ外來思想に自己の心理をうばわれた「イラシヨナル」極らない人間が自己の罪惡をして無智識労働者に移管した恐ろしい賣國奴である。と僕は過去に於ても現實に於ても「ナレッツチ」してゐる一人である、おそろく民衆意識の存在が現下の大衆が「ナレッツチ」してゐるならかならず僕と同意であると思ふ、總ての「インスティテューション」を破壊して「インストロメント」難を生じせしめた外來思想家の體内の奈邊に郷土愛の存在するやそこぶる困難な問題でなければならぬと思ふ、以上の如く人類國家的國難の初秋の夕邊突如郷土感念の衰退に憫みたる結果、川崎文治先生が親友關係がある三島一登氏を招き地方特有情調に親めよと暗示された事に對し僕は一夜先生の心狀を推察なし一人更け行く時々只々深謝の涙を意識的に覺知したのであつた。

願曰ば先生よ午後共我々のよき導きの人でありたい、十字街路に立ちて東西南北の羅針者で久遠的に先生の存在を要求いたします。

正確な体温計、関内藥局、寒暖計、電話〇番

耳鼻咽喉科専門

場所 (舊診療所裏通り)

合津醫院

平町仲田町(電話五五九)

高久病院

院長 醫學士 高久忠
 副院長 新潟醫學士 赤羽清忠
 藥局長 藥劑師 佐竹菊雄

平町田町 電話五二三番

夏季の氷水販賣中は各位の御引立を蒙り豫期以上の好況を深く御禮申上ます。今般吉例により九月十六日より蒲鋒製造販賣を開始致します。一層御引立と御聲援とを御願申上ます。

尙惣菜とおいしい揚物とを始めました

平二丁目(電話三〇五番)

藤市

御進物には

ヤマフルの商品券が一番

醬油味噌
 たひら正宗
 鯉節食料品

鹽屋

山崎合名會社

福島縣平町
 電話(營業部)一〇番
 (製造工場)二七番

BISHINGAN

子宮美神丸

使用した其の日からスグキク婦人病自宅療治藥、美神丸を未だシラナイ御方があります。永らく子宮病にて百藥の効なく御困りの方、處女にてもコシケに惱む方は安全にて人に知らるゝ心配もなく治療の目的を達します。定價一週間分四十錢、十週間分參圓五十錢

平町古鍛冶町(縣社ノ下) 一手販賣部

阿康藥店

(電話四四番)

季節向營業開始

親子天井
 なべやき うどん

平二丁目 **みたいや**
 電話三一九番

御存じですか?
 驛前新道通りの
ダイヤ堂
 時計眼鏡 販賣修繕
鈴木時計店を
 呼出電話八〇五番

御進物には

ヤマフルの商品券が一番

醬油味噌
 たひら正宗
 鯉節食料品

鹽屋

山崎合名會社

福島縣平町
 電話(營業部)一〇番
 (製造工場)二七番

持米が減少して 石城米漸騰氣配

豊作の夢も一朝に破られ 平年作程度を豫想

石城郡に於ける白米(四等米)の相場は一俵十一圓二七錢で取引され七月十一日の十一圓十五錢の相場に比較して十二錢高値である。收獲期を前にして相場が高くなつて来たのは品不足の結果であつて七月一日現在平穀物検査所に於て調査した石城郡の在米高は

- ▲地主持米一〇、四一五石
 - ▲自作者持米二二、四八五石
 - ▲小作者持米五、八八二石
 - ▲商人持米六、七四八石
- 合計四萬五千五百二十四石であつたが、七月以降九月中旬までに於ける二ヶ月間の石城郡に於ける白米消費量は四萬八千餘石であり持米では

不足を 告げてゐる

程でこの不足は他地方からの移入米に依つて補充して居り七月以降の移入米高は一萬一千七百七十石に達し持米高と合計すると五萬六千六百九十四石となり之から消費量を差引いた七千九百六十九石が九月中旬

現在に 於ける石城

郡の在米高である毎年收穫期に近づくに連れ持米高の減少するのは當然であるが例年は一萬石程度であつて今年は餘程減少を見てゐる譯である、豊作に喜んでゐる

淺間山爆發

平地方に降灰

平地方には本日早朝から盛んに降灰を見たが是れは暫く沈黙中であつた淺間山が十八日午前一時五分大爆發した爲めである

頻死の重傷

入山炭礦で

石城郡湯本町入山炭礦會社員青田義致(三〇)は十六日夜自宅で仲間五名と飲酒の末相手方瀨谷駒吉(三〇)と口論して頭部其他を殴打し瀕死の重傷を負はせた平署で取調中だが青田は喧嘩の常習犯である

豫算一割減 二ヶ村のみ 其他は未定

町村豫算一割削減の訓示に基き目下大馬力で編成中であるが最初可能の胸算を立て

てた町村もイザとなるとこれも駄目あれも駄目で案外減額の出来る費目がなく頭痛鉢巻の體である石城郡内で決定した町村は僅に警崎鹿島の二村に過ぎず本月中旬に覺束ないといつてゐる町村さへある

元郡役所附近は 各官衙が林立す

平署の移轉を皮切りに 土木監督所増築

問題の平警察署も漸く移轉したので今度は各種團體の落ち付き場所が決定すれば平署の移轉による凡ての事が終りを告げる譯であるが現在各種團體が執務してゐる會議室は三ヶ月間の中に明け渡さねばならない

條件つき

なので團體に拂ひ渡された舊平署の建物について安島郡農會會長は十六日建物を視察し移轉費用約二千圓の捻出方法を講ずることになつたが各種團體事務所は現會議室北横手の縣有地元上席郡書記官舎を移動させた跡に約五十坪の



家庭知識

◆砂糖の灰汁抜き法
鍋に砂糖と卵の白身を一緒に入れ三四本の箸で攪拌し

△警崎は頭初豫算五萬四千七百六十四圓中二千五百四十六圓減の二分の一厘即ち現在額より見れば僅かに一分強
△鹿島は一萬六千三百五圓中六百六十一圓減の二分五厘即ち現在額より見れば之亦一分二厘強である

一杯氣嫌で 橋を渡り溺死

石城郡上藤野村大字瀧小泉初太郎(七〇)は十六日午前八時家を出て隣村の友人大友今朝吉方を訪れた處酒肴の饗應を受け泥酔して同日午後七時歸宅せんとして上遠野川に架せられた藤川橋が折柄の増水で危険に傾してゐるので警戒中の人々が危険だから渡るなど注意した處初太郎は呑んだ勢ひで大丈夫とばかり渡り出したが橋の動搖が劇しい處にもつて来て泥酔してゐるので足もと定まらずアワヤと見る間に濁流に轉落したので大騒ぎとなり捜査に努めた結果町餘の下流に溺死體となつて浮び上がったのを引き上げた

明日の天気

東の風天
氣次第に
悪く夕刻
小雨模様

ながら清水をそよいでよくませ合せ、中火にかけて煮立て十分間も煮ると上面に泡がうき上がるから今度は弱火にかけ十分間煮鍋をおろし際に大匙一杯の清水を加へておろしてから絹漉でこす、金とん、羊羹、水蜜飲料等に用ふ混合の割合は砂糖百斤につき卵の蛋白半

子供と皮膚 練を原市

が著しくなつて参りますと子供の呼吸器が影響されて種々な呼吸器關係の病氣を惹き起します。これ等は少しひどくなると肺を痛めることになりやすから、呼吸器關係の病氣に犯されぬやう皮膚の

るべく子供を郊外などに努めて連れ出し、殊に都會の子供は成る可く家の中で遊ばせぬ様に父兄は此秋のよい時候を利用して子供の皮膚を丈夫にして風邪を引かせぬ

戻る事が 出来ませぬから秋口によく起るもので明け方の寒い空気に觸れて氣管を痛め咳が出て来て熱が三十七八度位出て来ます。これが氣管支加答兒で打棄て、置くと大抵は肺炎を起しますからたとへ、咳だけでも早く家に入れて安静に寝かせて暖かにして居れば大事に至らずに

キネマの夕

白銀青年主催

平町白銀青年分團にては来る廿二三の兩日晝夜聚樂館に於て基本金募集の爲め「キネマの夕」を催す由にて入場料卅錢、上場映畫左記の如くである

無検査米を 秘密に移出

勿來の商人

茨城縣に隣接する石城郡勿來町地方の米商人と農家中には米の移出検査手数料の脱法に無検査米を茨城縣下に送つて移出するものが續出した傾向があるので平穀物検査所が嚴重警戒中十六日午前三時勿來町赤津伊助(五〇)が無検査米十五俵を茨城縣平潟町に運送の途中検査したか今後は検査員を國道筋に張込ませて徹底的に取締り検査次第嚴重に處分することになつた